

身体運動の制御感を推定する戦略と 脳卒中後運動障害によるその変容実態の解明

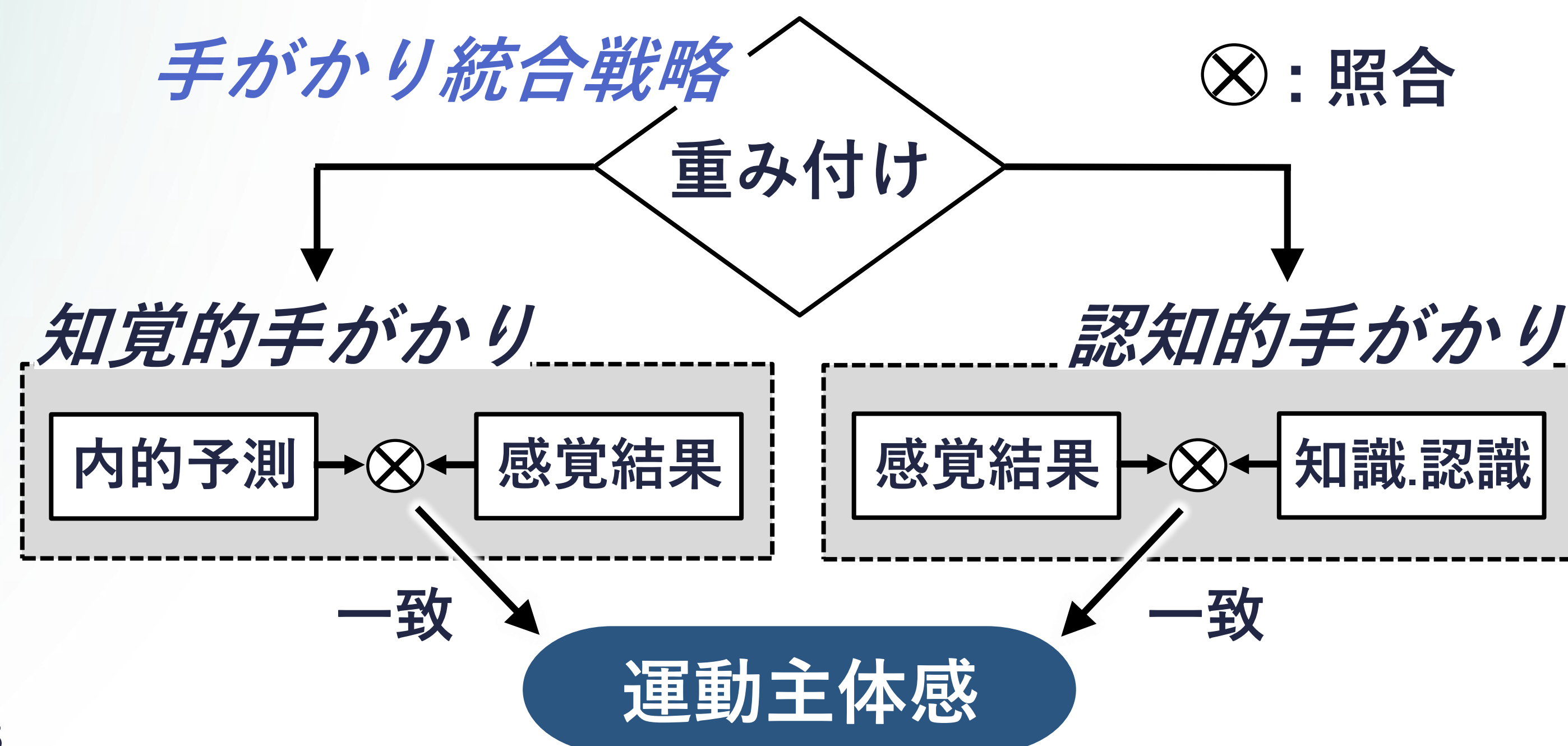
宮脇 裕 (共創場デザイン研究チーム)
yu.miyawaki@aist.go.jp

“Sense of Agency”

運動主体感：身体運動の制御感



感覚入力と運動出力のMediator Asai, 2015



■運動主体感のメカニズム → 手がかり統合理論 Synofzik et al., 2013

- ・ 知覚的・認知的手がかりに基づき運動主体感が誘起
- ・ 状況に応じた各手がかりの信頼性に基づきその重み付けが決定

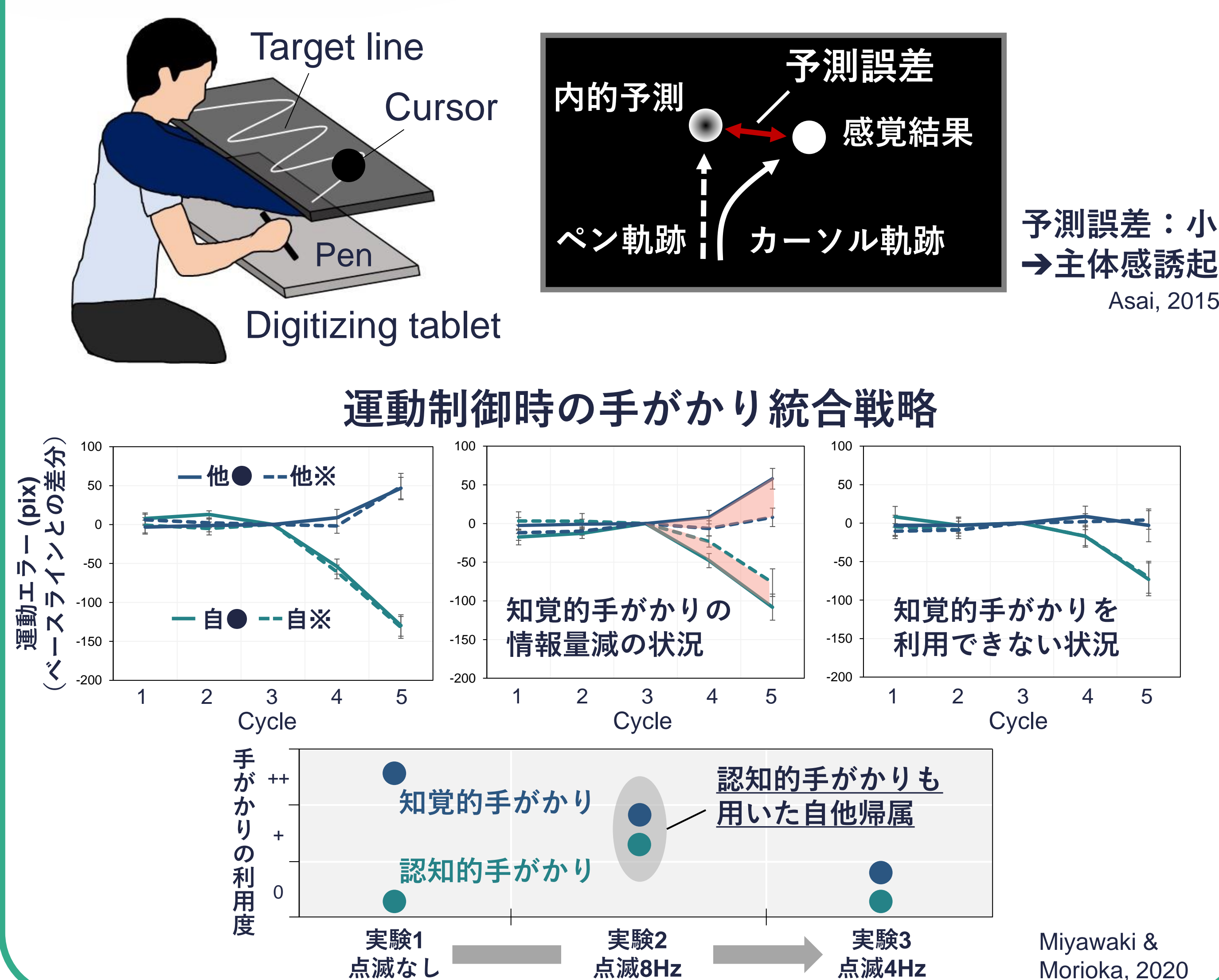
■脳卒中後運動障害の影響 → 手がかり統合戦略の変容

- ・ 運動主体感の推定戦略には個人差がある？
- ・ 運動補助時に運動主体感を与えるには？



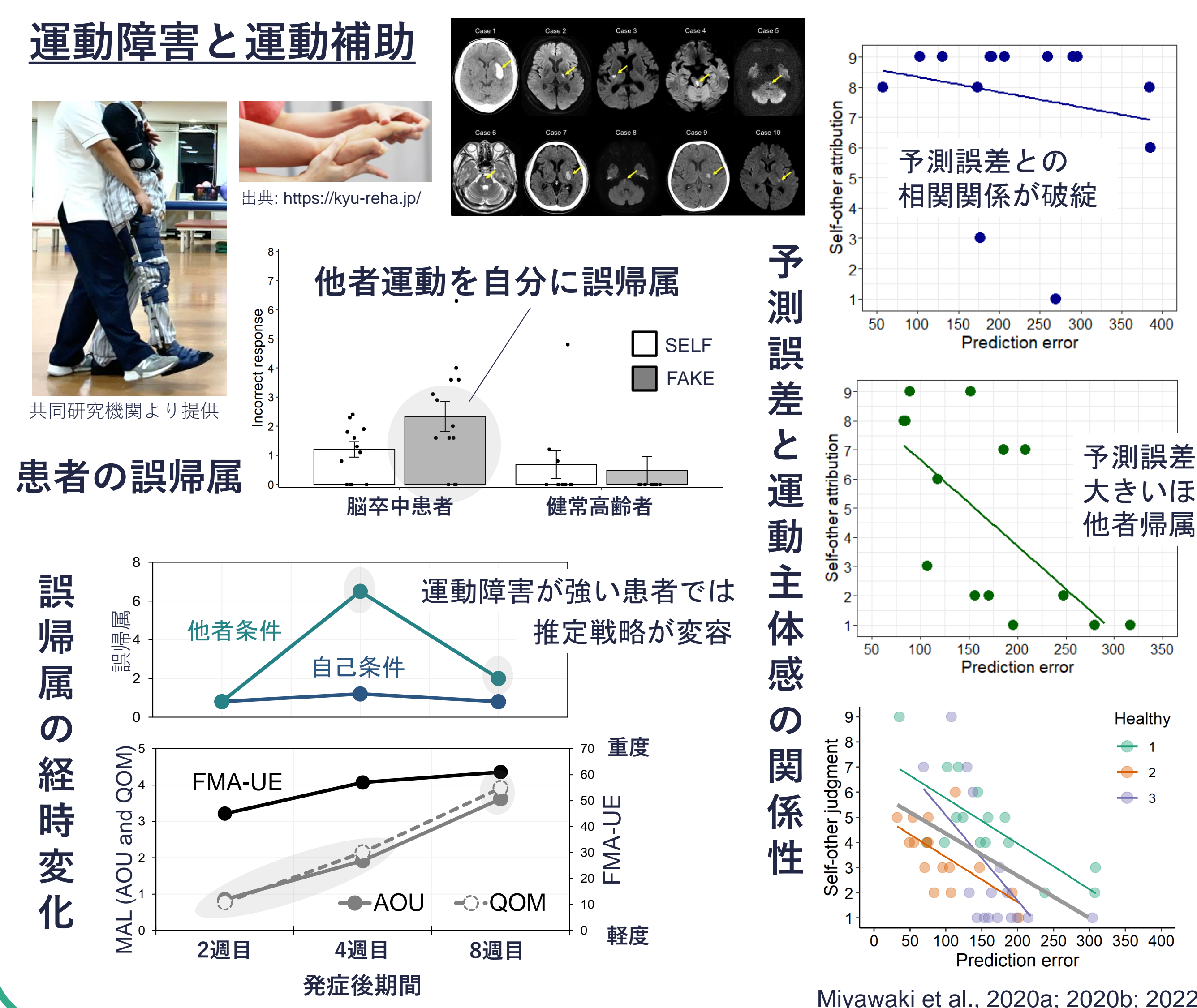
運動主体感を任意に操作できれば、行動変容を実現できるのではないか？

健常者の推定戦略



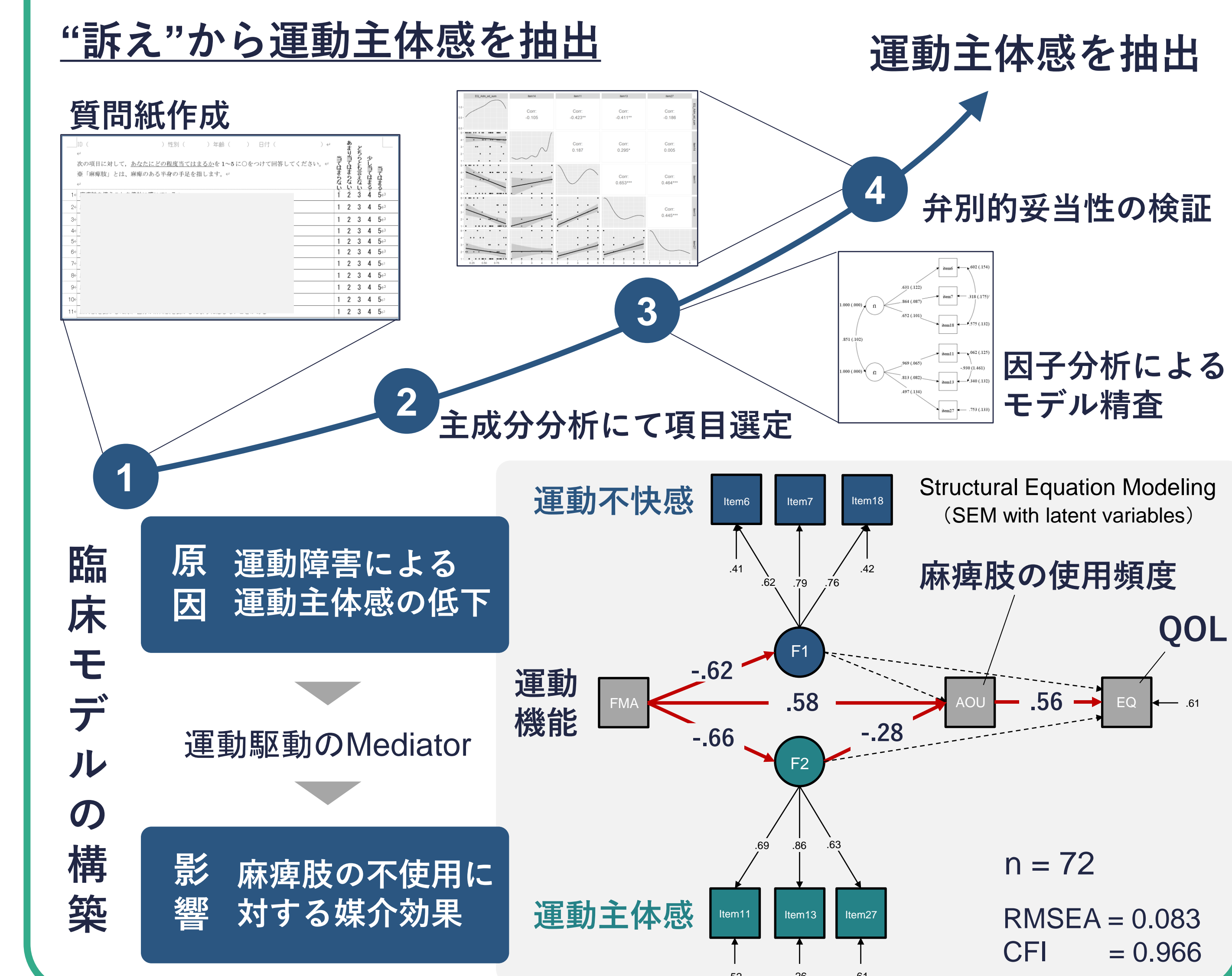
→ 知覚的手がかりに基づき運動主体感を推定

患者の推定戦略



→ 認知的手がかりに基づき運動主体感を推定

行動変容モデル



→ 運動主体感が患者の運動を変容させる可能性

推定戦略の“個人差”を考慮することで、運動主体感を操作し行動変容を実現できる可能性



キーワード：運動主体感、リハビリテーション、行動変容

連携に関する連絡先：人間拡張研究センター (harc-liaison-ml@aist.go.jp)
研究に関する連絡先：宮脇 裕 (yu.miyawaki@aist.go.jp)